



同友しずおか

3



私の逸品
 ニューサマーオレンジから生まれた新・伊豆みやげ
(有) 飯田店 (伊東支部)
 詳細はWEBで!
 静岡同友会 検索

特集

中小企業問題全国研究集会in鹿児島 県定時総会記念講演講師 坪内知佳氏訪問 (株)GHIBLI・東京同友会会員

会員訪問記 **渡邊 千央氏** ちお坊・富士支部
大場 和洋氏 (株)テクノパック・中遠支部

その他 主な内容

(株)吉村 企業見学会、御殿場支部中小企業振興基本条例学習会、支部だより、イントロセミナー in静岡、新入会員・名義変更紹介、友達の輪、事務局インターンシップ、平成29年度 上期会費 口座振替のお知らせ

平成28年度 重点課題

- ① 経営指針の成文化率を高め、人を生かす経営の実践で、同友会型企业づくりを進めます。
- ② 中小企業憲章の精神をいかした中小企業振興基本条例の制定をめざします。
- ③ 早期に1200名会員を達成し、地域の活力を生み出す活動を推進します。

第47回 中小企業問題全国研究集会in鹿児島

経営維新は薩摩からでござす！一緒に語りもんそ！

～全国から1189名が集結、静岡から32名が参加～

2月16日(木)～17日(金) 城山観光ホテル



記念講演講師 窪田 茂氏

第47回中小企業問題全国研究集会in鹿児島(以下、全研)が城山観光ホテルを会場に開催され、全国各地から1189名が参加しました。

1日目は分科会からスタート。情勢を読み自社経営に生かす、経営改善により強靱な経営体質を創る、付加価値創造、求人難への対応、エネルギーシフトなど、テーマごとに13分科会が行われました。見学分科会は、親会社への依存から脱却し、社員の自主性が発揮される自立型企业への転換をめざす企業と、439名の若く貴い命が失われた特攻隊の記録を残す知覧特攻平和会館の2分科会で、特に後者は、命の重さと平和を考える貴重な分科会になりました。

2日目の記念講演は「伝統を守り革新し続けるローリング経営」をテーマに、鹿児島同友会会員の窪田織物(株)代表取締役 窪田茂氏が報告しまし

た。伝統産業である大島紬の生産高はピーク時の3%にまで激減。そのような状況下、既成概念を取り払い、他社の逆をいき拡大路線で社員を増やしたり、マンネリを打破し製作工程を時短化するためITを導入するなど、伝統と革新をセットにした戦略を構築。社員との密なコミュニケーションによる改善提案等で、インテリアやアパレルなどあらたな分野へと事業展開。競争しない商品開発を実現し、シェア6割を確保するまでになりました。100億円企業を夢みる窪田氏の決断と果敢な挑戦は、人材育成と共に、しっかりと会社に根づき風土として定着しています。

広浜泰久中同協幹事長は、本大会は開催の意義と目的が明確で、鹿児島同友会が一致団結して情報発信し会員増強に結び付いたと述べました。また、3つの目的の総合実践で指針にもとづく経営をすること、世界に誇れる日本をつくる先頭に立っていかうと、二日間をまとめた言葉がありました。

第3分科会 報告者：吉川 日生氏
(株シーパーツ・山口同友会)
アドバイザー：阿部 新氏
(山口大学 准教授)

自動車リサイクル業で 世界の最先端を目指す！

～人財と共に攻めのITで新たな市場創造～

逆境をバネにチャレンジし続ける

自動車リサイクル事業として長年会社経営をしてきた報告者の吉川日生氏(株シーパーツ)。

鉄くずの価格の乱高下に会社経営が翻弄され、価格暴落により売り上げが激減。業種変更を余儀なくされ、新たにリサイクル自動車部品販売に転換しました。事業の悪化、特に外部要因による悪化の場合、そこにとどまってしまう会社が多い中、既存の得意分野をあえて離れてこれから伸びていく分野に自分から転換していく。その時の決断は

トップとしてきっと怖いし、迷い考え抜いたあげく「よしやろう！」と決断して行動したのだろうと思いました。吉川氏は、業種業態の転換、海外研修に参加しての海外販路開拓・現地法人設立および新工場建設、ロボットの開発、関東(千葉)営業所開設と、大きく4回の転換期を迎えて、そのたびに会社をステップアップさせていきました。

私も8年前に大きく会社経営のかじを切ったので、自分のことと重ね合わせて聞きました。会社は生き物です。よく「環境の変化に適応したものが生き残る」と言われますが、外部環境が変われば、それに自社を適応させて変えていくことが大切です。また、不易流行という言葉の通り、会社の理念など大切にしなければならない、変えてはいけなところは守りつつ、手段である実現方法は、色々なやり方を試していくことが大切だと思いました。

人は変化に抵抗を感じます。しかし会社を変え

ていくことも必要です。そのためには、常に変わり続ける、変え続ける会社であること、変化に慣れておくことが大事だと思います。そして何より大切なのは、トップの覚悟です。

また忘れがちなのが「やりましよう！」と言ってもらえる社員さんたちとの関係・社風を普段からどれだけ作っているか、試されるものだと感じました。

長岡 善章氏 (株)アーティスティックス・沼津支部



第6分科会 報告者：坂上 隆氏
(株)さかうえ・鹿児島同友会
アドバイザー：南石 晃明氏
(九州大学大学院 農学研究院 教授)

衰退する業界で いかに活路を見いだしていくか ～自立と自律をもった、ゆるがない経営基盤で道を拓く～

私は自動車学校を経営しており、少子化、車離れというある意味衰退という共通点から第6分科会を選びました。

私も茶農家の長男として生まれ、農家の大変さを感じてきました。2年程前までお茶狩りをはじめ、会社が休みの時に農作業をやってきました。だからこそ農家の大変さは痛切に感じてきました。昨年からは茶畑をすべて貸しています。農業で生きる人達を尊敬しているので、坂上氏に大変興味を持っていました。お話を伺うと48歳で九州大学の大学院で勉強されているとのことでした。どこまでもいつまでも、何に対しても前に突き進んでいく姿が見えました。幾つもの壁を楽しんでいるような強さも感じました。

「大隅半島から日本の農業を変えていく」という経営理念に基づく「さかうえ式農業」を実践し、人育てをしています。社長が福岡に単身で住んでおり、会社に出社しなくても、育て上げた社員たちが目標をもって働いている理想的な会社であると感じました。また、農業を工業化、産業化している報告もあり、行動力が経営者として素晴らしいと思いました。

多くの経営者が人財育成、人財確保を問題点としてあげています。自分自身少し離れた目線で、経営者として成長する必要性を感じます。

同友会の共育。社長が変われば会社は変わる。坂上氏のように社長自らが勉強して社員にその背中を見せなければならぬことを痛切に実感しました。また、社員が夢やビジョンを持てる会社になければと感じる分科会でした。

水野 悦裕氏 (株)榛南自動車学校・榛原支部



第12分科会 報告者：鶴ヶ野 未央氏
(株)九州タブチ・鹿児島同友会

企業発展の礎となる 『人の成長』と自主性

今回、分科会にて工場見学にお伺いした(株)九州タブチは、給水システム関連商品(鉄やプラスチック等)を製造する会社です。弊社と同じ製造業という点に加え、親会社の100%出資子会社で親会社に頼りきりの体質であった、という部分でも共通点が多く、代表取締役社長 鶴ヶ野未央氏の報告では、経営革新への取組みや苦労の事例から学びました。経営革新の発端となったのは、会社創立30周年目を迎えた年にあった経営大危機。需要の大幅減少から、債務超過企業となった事から始まり、主力製品への大手参入による売上70%減、親会社やメインバンクからの融資停止、従業員の25%リストラを断行するも、工場は大ロット見込み生産からデッドストックも溢れ返る状況。この惨状を何とかせねばと、数日間にわたる徹底した議論で経営革新の必要性を整理し、活動が始まります。

取組み事例の1つはトヨタ生産方式の導入。これもただ導入するのではなく、現場のモノづくり目線での改革改善・順応性を高める仕組み化・改善等、活動の出口を据え置いた上での取組みにより、6年後生産性が倍になったとの報告がありました。一見ロジカルにも見える取組みですが、鶴ヶ野氏はどの活動においても「考動する人をつくる」事を常に意識されています。社内表彰も表彰状文を全て変え、改善発表も外部来賓を招きマナー化防止、各提出物には必ず役職者以上が全てコメントを書く等「人」を認め・尊重する環境と仕組み化の融合が、自主性発揮の肝となっているように感じました。

下山 昇一氏 (有)下山製作所・三島支部



子どもの故郷を残したい

～萩大島に県定時総会講師 坪内知佳氏を訪ねて～

(株)GHIBLI・東京同友会会員

県定時総会の記念講演を務める坪内知佳氏を訪ね、山口県萩市を訪問しました。漁船団の船で萩大島に渡り、船団員の方々と交流し、坪内氏が萩に根づき自然体でたくましく生きる姿を、打合せを兼ねて視察してきました。



大河ドラマ「花燃ゆ」の舞台である山口県萩市は、吉田松陰、木戸孝允、高杉晋作、伊藤博文などと縁のある、由緒ある街並みです。観光と水産業で成り立つ萩市大島で、漁業を再び活性化

させるために、想像を超える行動力で漁師たちを引っばる、坪内知佳氏 (株)GHIBLI)。県定時総会記念講演のプレ報告打ち合わせでの、氏の第一声が「子どもの故郷を残したい」でした。

坪内氏は1986年福井県生まれで、学生時代に起業家として経営者のスタートをきりました。在学当時から群を抜く行動力と対応力で手腕を発揮、経営者になることを早くから決め、留学先も数ヶ国にわたります。結婚を機に萩市に移住し、現在はシングルマザー。2012年に「萩大島船団丸」の代表に就任し、船団のマネジメントや、1次産業の6次産業化に邁進し、その活動が認められ、現在政府の地方創生有識者会議にも出席しています。



萩市の産業である観光と水産が衰退していくと、萩市で生まれ育った子どもの故郷がなくなってしまう。「子どもの故郷を残したい」とは、母として、また海が好きな坪内氏の決意でもありました。中型巻き網漁を主とした漁法で魚を収穫し、船上で鮮度のあるうちに梱包配送など段取りを実施しています。直接の顧客である料亭や居酒屋だけでなく、ミシュランに格付けされている三ツ星レストランなどにも魚を出荷しています。元々はよそ

者、素人でありながら、漁業のしきたりや商習慣に体当たりでぶつかっていき、ひとつずつ形にしていきました。

プレ報告では、坪内氏の突破力・行動力・継続力・巻き込み力など、多くの気づきやヒントを頂きました。訪問時の坪内氏はドバイからの出張帰り直後だったのですが、全くそうとは思えないほどパワフルな報告と内容でした。時間の経過を忘れるほどの熱い打ち合わせは、午前0時近くまで及びました。

翌日、萩大島船団丸のスタディ・ツアーに参加しました。直接、漁師さんたちからも話を聞いたのですが、自分たちの活動を語る姿には、困難もありませんながら萩大島に住む「誇り」を十分に感じる事が出来ました。



坪内氏の報告は単なるビジネスモデルの報告ではありません。地域のことを愚直なまでに真摯に取り組み、産業を支え、地域を支える内容です。中小企業振興基本条例について難しく考えている方々、青年経営者、女性経営者、そしてすべての県内会員の皆さん、自社に持ち帰るヒントが詰まった報告となることをお約束いたします。5月11日に開催される静岡県中小企業家同友会県定時総会に、多くの方の参加をお待ちしております。

箕 威頼氏 (㈲アサギリ・県副代表理事)

想いを包み、未来を創造！全員が考え・行動できる会社づくり

～株式会社吉村 企業見学会 静岡同友会から19名が参加～

2月13日（月）焼津市にある(株)吉村にて企業見学会が開催されました。本企画は東京同友会品川支部が定期開催する幹事会の一環として紹介頂きました。



同社の代表取締役社長・橋本久美子氏（東京同友会品川支部）は2011年6月中同協女性経営者全国交流会in静岡で記念講演を務めた方です。1932年創業、現在社員209名で、茶・海苔を主とする食品包装資材の企画・製造・販売を事業柱とし、本県に総合工場を立地。東京（本社）、宮城、京都、福岡、鹿児島、静岡に営業所を展開されています。

橋本社長は結婚、出産を機に一度退職し、約10年間の専業主婦生活を経て復職。2005年に父から引継ぎ、社長就任。先代は「これからは、流通は川上にいく。産地で茶葉を詰めるから工場は静岡だ」とメーカーになることを決意。実行力のある先代そのものが会社の答えでした。おのずと社員からはカリスマ性のあった先代と比べられ「リーダーらしくない、覚悟がない」という目で見られた日々が続いたそうです。そんな中、自己表現のセミナーと出会い、自分も相手も大切に自己主張と表現法、長所と短所はコインの裏表の関係



であることを学びました。社員に「任せる」ことを繰り返し実践し、女性ならではの感性と行動力、笑顔と度胸とアイデアで会社は大きく変わっていきました。

現在、「想いを包み、未来を創造するパートナーをめざします」を経営理念に、社会性・科学性・人間性の経営方針も掲げています。会社の目的・目標を4つの視点（①お客様、②業務プロセス、③育成と成長、④財務）に分け、全社員が目標設定すると共に、月次の業績は全社員が把握できる透明性を持たせています。茶業界のビジネスパートナーとなるべく、一貫生産の強みを最大限生かし、安売りしない・下請けにならないことを共通認識とされています。これら理念・方針・強みの説明は、すべて社員さんが語りました。全員が経営に参画できる仕組みをつくるため、徹底した時間管理と最大効率を上げる「吉村会議術」、失敗を風化させない「レジェンドリスト」、全員参加型の「ミニ会議」など、どれも目からうろこの取組みばかりでした。

セールスサポート体制も盤石です。袋・箱・包装紙・シール等、実に4000点以上のオリジナル製品を保管し、15時までの注文は即日出荷も可能とのこと。また小ロットのオリジナルパッケージに対応できる「エスプリ」を業界に先駆け10年前に導入、クラス10万のクリーンルームで製造しています。「グラビア印刷」と共に、お客様に価値ある商品を提供するため、社員自らが考え、行動できる会社づくりの実践を聞かせて頂きました。社長も社員の皆様も、イキイキと働き、語りあう姿に、参加者は自社に持ち帰るヒントが多い貴重な見学会となりました。



御殿場支部 中小企業振興基本条例学習会

条例制定にむけて大きな一歩を踏み出す

御殿場市民会館 2月10日（金） 参加57名

御殿場支部主催による中小企業振興基本条例学習会を開催しました。講師に静岡大学名誉教授、静岡同友会顧問の山本義彦氏をお招きし、地域社会にとって中小企業憲章・条例がなぜ必要か講演頂きました。当日は会員だけでなく、行政、市議会、教育委員会、商工会、青年会議所、観光協会、農業協同組合、市内の全ての金融機関など多くの皆様にお集まり頂きました。条例は中小企業者と行政だけで作るだけでは意味がありません。山本先生の講演を通して、御殿場市の各機関・市民の

総意による条例を作るための大きな第一歩を踏み出すことができました。各機関の方々に、条例の必要性は理解してもらえたものと思います。御殿場市での条例制定に向け、御殿場支部政策委員会としての活動を本格化させていこうと思います。



大川 隆久氏（フエタ工業(有)・御殿場支部）

支部だより

御殿場例会

経営理念と共に羽ばたけ我が社！

2月8日(水) エピ・スクエア 参加60名



勝又充夫氏(株)鷹勝又・写真)、根上徳夫氏(有)ネガミ)、土屋信喜氏(エーストラベル(株))、山田健氏(山田庭園)が、御殿場支部経営理念部会の中で約1年をかけて固めてきた経営理念について発表しました。会歴、業種、役職の異なるメンバーが、自社の仕事を見直しながら、これからの自社が目指す企業の姿をとことん掘り下げ、経営理念を成文化してきました。支部会員からの様々なアドバイスもあり、短い期間ながら各社ともお客様や社員、地域に対する想いのこもった理念の成文化につながりました。

4名の発表後、理念と事業継承を絡めたテーマを2つ設定しバズセッションを行いました。「会社の良い部分や残すべきところは継承していく」「時代によって変えていく必要もあるのでは」など様々な意見が飛び交い、参加者一同が経営理念を考える良い機会になりました。

矢後 芳昭氏(株)御殿場場所・御殿場支部)

三島例会

安心して働ける企業を目指して

2月27日(月) 三島商工会議所 参加27名



梶山康行氏(株)アイティエス)が、自社における人間尊重経営の実践について報告しました。梶山氏は2008年のリーマンショック直後に社長に就任。売上は40%ダウン、その後3期連続で赤字になってしまいます。個人のリースも通らず、経営者としての社会的信用がどん底に落ちたことを実感したそうです。少しずつ経営も立て直していく中、梶山氏は富士支部30周年の記念講演で、故・赤石義博氏による人間尊重経営の報告を聞きました。自社の経営を省みたところ、創業者の現会長が作成した会社経営コンセプトこそ正に人間尊重経営だ、と気づきます。そこで、言葉を少し変え「地元で安心して働ける企業となろう」という理念を作りました。「なろう」とすることにより、進行形となり、会社の永遠のテーマとなるようにした、とのこと。同友会三つの目的、自主、民主、連帯の精神こそが安心して働く企業の根底に必要と考えるようになっていきました。

梶山氏の報告とバズセッションを通じ、「安心して働ける会社」について深く考えることができた例会となりました。

望月 健太郎氏(有)望月新聞堂・三島支部)

沼津例会

あなたの会社にはありますか？経営理念

2月15日(水) プラサヴェルデ 参加54名



沼津支部経営指針を創る会で学んできた辻本光裕氏(株)辻本企画)、鈴木崇史氏(ぐり茶の五十鈴園)の2名が報告しました。辻本氏は、経営理念の作成過程を報告。「経営理念作成シート」に則って報告する氏の姿は、自分探しの旅に似ているように感じられました。続いて報告した鈴木氏は、約2年をかけて経営理念を創り上げました。自社の茶に対するこだわりや、お客様に日本茶文化の良さや「嬉しい」を届けたいという想い、社内の全員で取り組むという決意が感じられる、研ぎ澄まされたような理念でした。バズセッションでは「あなたの会社の10年後の姿は明確になっていますか？」をテーマにグループで意見交換でき、経営指針をつくることの重要性を再認識しました。経営理念はなぜ創るのか。どのように創るのか。参加者一同が本例会を通じ、感じたのではないのでしょうか。

笹沼 幸雄氏(有)アイコン・沼津支部)

富士例会

社員との信頼関係の重要性

2月9日(木) ロゼシアター 参加31名



複合機の販売保守を軸に業務展開している、影山伸和氏(あんしんビジネスサポート(株))による我が経営を語る報告でした。約20年事務機の商社に勤め、仕事の中で独立を決意した経緯をはじめ、会社設立時に起きた奇跡、そして創業時から二人三脚で頑張ってきた社員の退職、そこから学んだ事、これからの事業展開等々、今まさにライブで起きている会社の出来事を赤裸々に語って頂きました。人と人のご縁をととても大切にしている影山氏に起こったまさかの“人”の問題。どの会社でも起こり得ることで、とても考えさせられる報告でした。

バズセッションでは、「信頼おける片腕がいなくなったら」というテーマで討論しました。

会社の規模に関係なく、社員との関係を考えることは重要です。社員の事をどれだけ考えているか？任せきりになっていないか？人を生かす経営とは？等々活発に意見が飛び交い、とても有意義な例会でした。

大竹 政彦氏(有)富士清掃センター・富士支部)

支部だより

富士宮例会

13年目の覚悟

2月10日(金) 志ほ川バイパス店 参加47名



報告者は、支部の経営指針研究会で経営理念を成文化した渡邊昌和氏(株)中里メッキ)。同社の創業者である祖父の戦中・戦後の生い立ち、アイデンティティや創業に至るまでの経過をわかりやすく説明した後、2代目である父(現社長)への考え方・同族会社ゆえの悩みや不満などを赤裸々に語りました。そして、事業継承を見据えて経営理念の成文化に取り組み、会社から真正面から本気で向き合ったことから大きな学びが生まれ、遂には創業者の「思い」も取り入れた経営理念が完成しました。

今回、強烈に印象に残ったのは、(株)中里メッキのメインバンクから担当者をはじめ計3名の方を渡邊氏が例会に招き、この赤裸々な報告を聴いて頂いていたことです。このあたりが入社13年目の覚悟であり、事業継承の覚悟であり、その他様々な「覚悟」である裏付けという印象でした。

また、今回の報告で渡邊氏は、創業時から現在に至るまでの歴史を年表とした資料を用意しました。このことも、報告をわかりやすくしたツールとなり、今後の報告者の参考にもなったのではないか、と考えます。

草ヶ谷 健太郎氏(草ヶ谷燃料(株)・富士宮支部)

静岡例会

さらなる成長を求めて！

2月14日(火) ベガサート 参加59名



レンタルグリーン(観葉植物や植木等の貸し事業)を主に手掛ける青木雅一氏(青木園芸)の卓話を行いました。先代が倒れ、急遽バトンを引き継ぐことになった青木氏。当時勤めていた会社に残るか、父が築いた会社を残すべきか葛藤したのち、父が残してくれた会社を潰したくないという想いから引き継ぐことを決心しました。植物に関する知識もなく、最初は手探りの状態。母から商品に関するレクチャーを受け、顧客回りや配達業務を通じて仕事を覚えていきました。家族三人で会社を切り盛りしていく中で、価格設定の難しさ、家族経営であるがための衝突などの困難を経験する中で、(株)高栄塗装の久高氏に誘われ入会。同友会で受けたアドバイスを基に、自分の考え方を変えなければならないことに気づきました。そして学んだことを実践すべく朝礼を行うよ

うになりました。最初から上手くは行きませんが、粘り強く取り組んでいくことで、次第に家族からも理解され、連携が取れるようになりました。よりよい会社を目指すべく、来期は経営指針を創る会受講を決意。自分が何をやりたいのか、会社をどうするべきなのかを学んでいきたいという意気込みが窺えました。青木氏の真っすぐで赤裸々な報告に参加者から熱いエールが送られました。

宮田 博文氏(有)ミヤタ印刷・静岡支部)

志太例会

10年後も生き残る会社には何が必要か？

2月23日(木) 藤枝パークインホテル 参加19名



「10年後、あなたの会社は生き残っていますか？」と題し、長期的な企業戦略について考えるという例会でした。冒頭で山田幹也氏(株)立花ガーデン)から、過去・現在の業界や会社の状況と、10年後生き残るための3つの戦略を報告してもらいました。外部環境がますます厳しくなると予想される未来の中で、いずれも柔軟な発想によるユニークな戦略だと感じました。後半のバズセッションでは、各々の会社ではどのような戦略が可能かという議論をしました。会員の皆が、日々考えているビジネスモデルやアイデアを発表し合いました。

私は今回の例会を通じ、現状にどう対処していくかというだけでなく、長期的な戦略を立てるための視点を持つこと、また時代の流れの一步先を行くアンテナを持ち、試行錯誤を繰り返すことが、持続可能な企業をつくっていくのではないかと、ということを学ぶことができました。

水野 芳康氏(株)水野建築事務所・志太支部)

榛原例会

関わる人との『幸せの共有』で地域の活性化を

2月23日(木) 静波コミュニティ防災センター 参加53名



遠藤在氏(Sign)が「Change + Challenge 個から公へ」と題して報告しました。

美術大学を卒業後、デザイナーとしての自分(個)にフォーカスをし、新潟でデザイン・販売業を共同経営していた時期は、効率と合理性を追求し、一緒に仕事をする部下も自分のサポーターという認識でした。しかし、社内の空気感の悪さを改善しようとしたことをきっかけに、人の力を引き出す事の重要性に気付き、変わることができたそうです。家庭の事情で地元の吉田町

支部だより

に戻り起業した後は、知己もなくデザインという仕事や自分自身が受け入れられるのかという悩みもあり、商工会青年部へ加入。そこで、周りに温かく迎えられたことで「地域や人に恩返しをし、関わる人と幸せを共有したい」と考えが変わりました。現在、デザイン・プロデュース事業を行うことで、地域活性化につながることへの挑戦をしています。16名ものオブザーバが参加され、バズセッションは「経営をする上で大事にしていること」について話し合いました。

河村 智氏 (マツヤデンキ (株)山崎商会)・榛原支部)

中遠例会

同友会と私～経営者としての私の決意～

2月9日(木) ワークピア磐田 参加25名



報告者の遠藤健正氏 (有)大橋商事)は、同友会入会后、当初は会の行事には出るものの、あまり積極的な活動をしていませんでした。しかし、副支部長就任や第13期経営指針を創る会への参加をきっかけに大きな刺激を受け、同友会活動と会社経営が不離一体であることに気付かされました。遠藤氏は、少子高齢化が一層高まる10年後を見据え「家業から企業」へ会社経営のかじ取りをしていく中、企業風土や理念を大切にすることを学んできました。また、現在取締役である遠藤氏は、今までは社長を見て仕事をしてきたことに気づき、工場長をはじめスタッフとの人間関係を重視した対話型の仕事のやり方に変えています。後半は「経営者としてのあなたの決意は何ですか」をテーマに討論しました。例会の最後にオブザーバから感想を発表してもらったのですが「こんなに失敗談を聞ける会は他にない。入会します」と宣言して頂いた方があり、大変印象的でした。

大橋 徳久氏 (有)大橋商事・中遠支部)

浜松例会

新旧会員で学び合った「同友会の活かし方」

2月15日(水) (株)エーグッド 参加17名

「新入会員と語り合おう」と題した今月の例会では、根岸優氏 (アイエム(株)・写真)、服部勝也氏 (HAIR DESiGNiG BIGUP)、鈴木慎吾氏 (鈴木慎吾税理士事務所)が、それぞれ自社・自身の過去・現在・未来や、同友会に入って変わったこ

と、ヒントになったことを報告しました。保険代理店の後継者として、経営課題に取り組み挑戦し続ける先輩会員に刺激を受ける根岸氏。浜松市中区で美容業を営む自社の「事業定義」の気づきを例会の中で得られたことや、自社・自身の成長への決意を語る服部氏。経営計画書づくりの手伝いと数字に強い経営者になるための手伝いを通じ「よい会社」「よい経営者」へのサポートをしているという税理士の鈴木氏。三者三様の話の後、同友会の活かし方について意見を交わしました。そこでは「悩みを相談し、アドバイスを貰い、行動する」「経営指針を創る会で、支部を超えて同友会の仲間達と学ぶ」「バズセッションによって学びが深まる」など様々な意見が挙がりました。3月例会では次年度の例会企画について討論するのですが、そこにも繋がる、実のある例会であったと思います。

真砂 隆氏 (フロムネイチャー・浜松支部)



イントロセミナーin静岡

2月28日(火) 事務局会議室 参加37名



冒頭で河合浩史氏 (板橋工機(株)・沼津支部)から、同友会理念や静岡同友会の活動について紹介。続いて山田幹也氏 (株)立花ガーデン・志太支部)が、同友会での自身の体験や、自社での実践について報告しました。山田氏は「第11期経営指針を創る会」で自社・自身を見つめ直しながら指針創りに取り組みました。現在では毎年指針を見直し、社員も交えて討論しているとのこと。また、山田氏は10年後の自社のビジョンも紹介。これを受け「10年後、あなたの会社は何をして生き残っていますか」というテーマでバズセッションを行い、参加者全員が自社や自身の現在・未来について考え、意見を交わしました。8名のオブザーバのうち4名から当日中に入会宣言が挙がる、非常に実りあるイントロセミナーとなりました。

3月23日(木)にもイントロセミナーが同友会事務局で開催されます。ご参加、オブザーバへのお声掛け、どうぞよろしくお願ひします。

原点はフレンチ!? 地場の食材を生かした鉄板焼店

ちお坊

渡邊 千央氏 (富士支部)

事業内容: 飲食店 (お好み焼き)

創 業: 2013年10月

入 会: 2016年1月

所 在 地: 富士市横割2-2-27

T E L: 0545-60-0515

富士・新富士駅から徒歩圏内の鉄板焼き店

閑静な住宅街にほど近い幹線道路から少し入った場所にある鉄板焼き店「ちお坊」。店主の渡邊千央氏は、頭にタオルを巻きながら厚い鉄板の前に立ち、押し寄せる注文を手際よくさばきます。富士駅、新富士駅から徒歩5分圏内にあり、近隣にビジネスホテルも多いため、富士へ出張に来たサラリーマンの利用が多いとのこと。富士宮「ヨーグル豚」の豚料理など、鉄板焼きにとどまらず地場の食材を生かした料理を幅広く楽しめします。

業界を超えた出逢いを求め同友会に入会

様々な業界の人たちとの出逢いを求めていた渡邊氏は、同じく飲食店を営む高田磨人氏(天ふじ)の紹介で2016年1月に入会しました。自身がメインで料理することもあり、なかなかお店から離れられないことを悩みとして挙げつつも、経営者同士の交流や学び合い

の中に刺激を受けているとのこと。その上で、更なる刺激を求め、若い経営者の入会に、期待しているそうです。「時代のトレンドを捕まえるには、やはり若者の意見が必要。加えて、そのような情報を捉えるアンテナを張り、受信できる場所に身を置いていなければ、時代に取り残されてしまう」と語ってくれました。



渡邊千央氏

現状にとどまらず、飲食店店主として抱き続ける野心

今後の展望について聞いてみると、将来はお店の移転を考えている、とのこと。それも、レストランバーなど、現在とはまったく異なるジャンルでの出店を考えているそうです。聞けば、元々はフランス料理を勉強していたという渡邊氏。「ちお坊」の料理の幅が広く、見た目も味も絶品である理由はそこにあったのか、と思いました。

最後に将来の夢を尋ねると「日本一の蕎麦屋」とのこと。フランス・ブルゴーニュにそば粉で作る郷土料理「ガレット」がありますが、フランス料理との出会いがこの夢につながったのでしょうか。職人気質を感じさせる渡邊氏の話から、高い理想と、その実現に向かって着実にステップを踏んでいる姿を感じました。

取材・記事: 川村 晃睦氏 (株)ダイワ装備・富士支部

社員を第一に考えることがお客様の満足に繋がる

(株)テクノパック

代表取締役 大場 和洋氏 (中遠支部)

事業内容: ティーパックの製造・販売

設 立: 1985年11月

社 員 数: 正規8名 パート3名

入 会: 2016年7月

所 在 地: 袋井市新池1393-1

T E L: 0538-42-5125

ノウハウを生かしニッチな分野に特化

袋井市内で同様の事業を営んでいる会社の兄弟会社としてスタート。以来、創業者の精神を受け継ぎ、堅実経営を続けてきました。茶葉のティーバッグ加工というニッチな分野に特化し、海外から輸入した専用機械を駆使する技術と、自社での維持管理や修理を可能にした高度なノウハウを持つことが強みです。

突然の承継、事業継続に向けて奮闘

2014年6月、創業者の長男である前社長の突然の病により、急遽後継者として白羽の矢が立ったのが大場現社長。一族でもない自分がトップになるとは思いもよらないことでした。しかし共に働いてきた社員のため、会社存続を第一に考え社長就任を決意。折からの茶葉需要の減少により受注量も右肩下がりの中での引き継ぎで、何をすべきかもわからず、目先の問題に必

死に取り組んだ毎日だったと振り返ります。

「まずは会社をつぶさないこと」という大場社長。それまで力を入れてこなかった営業活動を行い、新規受注を得る努力も始めました。顧客が何を求めているか理解し、すぐに対応することを心掛けています。また本来のティーバッグの市場は縮小していますが、伸びている粉末茶の方にも手を広げていく計画です。将来自分がいなくなっても存続していくよう、会社を軌道に乗せていきたいと考えています。



左から大場氏、鈴木氏

お客様のため、社員のために経営者として成長していく

会社の自慢は「社員」。皆仲が良く、会社や仕事のことを真剣に考えてくれている人ばかりとのこと。「社員が充実して仕事に集中する環境を作れば顧客に満足していただける商品を提供できるはず」。社員第一の姿勢を貫くことが大切という信念です。

現在の悩みは工場が手狭なこと。機械が増えていますが拡張はなかなか難しい、また社長としての成長も課題だと大場氏は言います。「同友会に入って間もないですが、経営者の考え方や物言いが少しずつ分かって来た気がします。同友会は自分を成長させる場所です」と同友会への思いを語ってくれました。

取材・記事: 鈴木 弘之氏 (税理士法人 あい会計・中遠支部)

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数1060名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
佐田 竜一	佐田軽窓 アルミサッシ販売 (アルミサッシ、ガラスの販売・修理)	御殿場	菅 沼 良 将
前田 太希	静岡労務経営研究所 社会保険労務士 (労務に関する相談および手続き、給与計算・人材育成制度の整備、就業規則の作成、雇用保険関係の助成金申請、従業員との折衝等)	沼津	長 岡 善 章
磯辺 嘉将	(株)磯辺建設 建設業 (一般住宅、事務所、店舗、工場、官庁等の建築)	富士宮	朝 日 康 典
笠井 正樹	(株)笠井電化センター サービス業 (パソコン修理、販売、ネットワーク管理、ホームページ制作、ビジネスフォン工事、複合機、電気工事 (新築・リフォーム)、空調工事、アンテナ工事、家電製品販売)	富士宮	大 澤 秀 明
鷺坂 雄二	サギサカ設計測量事務所 土地家屋調査士・一級建築士 (測量、登記、建築設計)	榛原	鈴 木 徹
太田 政樹	太田印刷(株) 印刷業 (総合印刷、カレンダー、タオル、看板、ホームページ、うちわ、のぼり旗、ステッカー、荷札、ゴム印)	中遠	名 倉 篤 史

■名義変更による新名義人 (敬称略)

氏名	社名	所属支部	旧名義人
土屋 信喜	エーストラベル(株)	御殿場	土 屋 幸 一

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」にアップします。e.doyuからのご確認をお願い致します。

友達の輪 第36回

榛原支部の増田貴士さんからバトンを受け取りました、静岡支部の村松秀昭と申します。増田さんとは、同じ高校で部活の先輩と後輩の間柄。増田さんが同友会に入会したと聞いた時は、驚きと嬉しさを感じました。私は、静岡市駿河区で(有)村松建材という建築資材販売業を営んでおります。弊社では、主に一般住宅の内装・外装に使用する塗り壁材や左官さんへの材料を販売しております。

入会のきっかけは、井上齊さん(ワシロック工業(株)・静岡支部)に声をかけてもらった事が始まりでした。オブザーバとして参加した際に、経営指針を創る会のお話を聞き、自分も指針を創りたいと強く思い、入会に至りました。私自身当時は、ちょうど父から会社を引き継ぎ代表になった時で、経営者としてはまだまだわからないことばかりでした。同友会に入ってからすぐ創る会に参加し、先輩方から本音の意見をたくさん頂き、自社の経営について多く学ぶことができ、とても感謝しております。また、同期で入った仲間と、共に学び、励ましあいながら議論する事ができたのも私にとって貴重な経験になりました。

次回の友達の輪は、創る会12期で同期の保坂シール印刷(株)の吉川真実さんにバトンを繋げます。吉川さん、よろしくお願ひします。
村松 秀昭氏 (有)村松建材・静岡支部



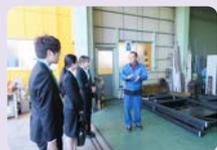
村松 秀昭氏

ワークラリースずおかインターンシップ 同友会事務局参加 常葉大学学生、事務局の仕事を通じ中小企業の「生の姿」を知る

ワークラリースずおかインターンシップ (主催：公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム) が3月まで開催されています。このインターンシップ事業は、大学1、2年生及び高専3年生、短大1年生を対象としていることや、ジョブシャドウ (仕事観察) 型であること、数時間~1日といった短期間で行っていることなど、企業側の負担が少なく、学生が企業に触れる機会が増える点が特徴です。

今回、同友会事務局に2日間で計7名の常葉大学学生が参加。13時から17時の間に2社、事務局員と一緒に会員企業の訪問を行いました。企業づくりや社長の想いなど「我が経営」を話す経営者の言葉に、学生からは「良い企業とは何かを知ることができた」「自分の人生を考える機会になった」などの感想が挙がりました。

今回のインターンシップ事業は、静岡地域の学生が中小企業の魅力や頑張りなど「生きた姿」を知る良い機会となりました。また、若手事務局員にとっても、自身の仕事を振り返り伝えるきっかけとなり、様々な効果を感じることができました。



静岡県中小企業家同友会会費 口座振替のお知らせ

口座振替日/平成29年4月6日(木)

振替会費/平成29年度上期会費

(平成29年4月~平成29年9月)

振替額/支部既定の通り

上記の通り、会費をご指定の口座から振替させていただきますので、ご確認をお願い致します。

なお、領収については、通帳への記帳をもって代えさせていただきます。

納入代行会社は「SMBCファイナンスサービス(株)」通帳印字は「SMBC(ドウユウカイ)」名で引き落としされますのでご注意ください。

同友会

三つの目的

1. 同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。
2. 同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。
3. 同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。